

～茨城県景気ウォッチャー調査結果(平成27年12月調査)～

茨城県企画部統計課 企画分析グループ

茨城県統計課では、本県の景気に関する生の情報を得るために、本県で働く多様な職種の方たちから景気の状態を3か月ごとにアンケートで情報収集する、県独自の景気ウォッチャー調査を行っています。今回は、この調査について、直近(平成27年12月)の調査結果の概要をご紹介します。

1 調査の特徴

景気関連の統計には、景気ウォッチャー調査のほかに、鉱工業指数、景気動向指数、県内総生産四半期速報などがありますが、景気ウォッチャー調査の主な特徴は次のとおりです。

- ・県内で働いている人々の生の声が聞けるため、実感に近い景気を把握できます。
- ・さまざまな業種の方々にウォッチャーをお願いしていることから、企業サイドのみならず消費サイドの動向も把握できます。
- ・県内5地域に分けて集計・分析をするので、地域ごとの景気動向が把握できます。
- ・調査の翌月には結果を公表しており、リアルタイムの景気を把握できます。

2 調査の概要

- (1) 調査客体数…県内5地域(県北、県央、鹿行、県南、県西)ごとに60名、計300名。
- (2) 調査内容…景気の現状及び先行きの判断(「良」「やや良」「変わらない」「やや悪」「悪」の5つから選択)とその判断理由(コメント)について回答をもらい、回答割合で指数(DI)化して集計。
- (3) 調査時期…四半期(6, 9, 12, 3月)ごとに実施し、翌月公表。
- (4) 調査期間…平成27年12月1日～12月31日
- (5) 回答率…91.7%(300名中275名から回答)

3 調査結果の概要

- (1) 県全体の景気現状判断DIは前回(9月)調査比0.3ポイント低下の46.5となり、2期連続の低下となりました。また、地域別の現状判断DIは、県南で景気が上向きであることを示す50を上回った一方で、県西は7.0ポイント低下の39.4となるなど地域間でバラツキが見られました。
- (2) 3か月後の景気の先行きに対する判断DIは46.6となり、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI (Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つであり、景気の方向性(景気が上向きか下向きか)をみるもので、50が横ばいを表しています。 茨城県景気ウォッチャー調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出しています。
	12月調査結果	前回調査との比較	12月調査結果	前回調査との比較	
県全体	46.5	-0.3	46.6	-1.6	<参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き
県北	46.3	+4.3	47.7	+0.8	
県央	47.8	-3.6	46.1	-4.4	
鹿行	48.2	-0.4	48.2	-0.4	
県南	50.5	+4.7	49.1	+1.0	
県西	39.4	-7.0	42.1	-4.8	

4 県全体の動向

(1) 現状判断D I

分野	調査年月	平成26年 12月	平成27年 3月	平成27年 6月	平成27年 9月	平成27年 12月
合計		42.6	48.9	49.4	46.8	46.5
家計動向関連		41.4	48.4	51.9	44.7	46.2
小売関連		41.5	50.4	52.2	49.1	46.2
飲食関連		39.8	48.9	50.0	38.5	39.6
サービス関連		41.8	46.3	52.4	42.4	47.2
住宅関連		41.7	50.0	50.0	53.1	56.3
企業動向関連		42.2	47.2	43.1	48.6	45.5
農林水産業		25.0	43.8	40.6	46.9	50.0
製造業		39.4	43.5	42.6	46.1	41.3
非製造業		50.0	52.9	44.3	52.1	50.0
雇用関連		53.3	58.7	55.4	54.2	52.2

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・(百貨店) 歳暮、クリスマス商戦中で、いつもの月より来店客数が増えているが、暖冬傾向にあり、コートの動きが弱いなど、衣料品は3か月前に比べさほど良くなっていない。高額品はクリスマス直前に向け、徐々に上がっていくと思われる。
- ・(製造業(食料品)) 燃料の価格が下落しているので、各事業所とも経費の節減になっていると思う。一般家庭でも同様ではないか。
- ・(公共職業安定所) 全体的に求人数は多くなり、景気は良くなっているが、一部の企業、特に海外に進出した企業では、中国経済の影響で状況が悪くなっている。

(2) 先行き判断D I

分野	調査年月	平成26年 12月	平成27年 3月	平成27年 6月	平成27年 9月	平成27年 12月
合計		45.1	51.6	52.4	48.2	46.6
家計動向関連		44.7	51.3	53.4	48.2	46.8
小売関連		44.9	54.2	53.7	47.2	45.8
飲食関連		46.6	50.0	52.1	44.8	49.0
サービス関連		44.7	49.7	54.1	51.1	46.9
住宅関連		38.9	42.9	50.0	40.6	46.9
企業動向関連		45.3	50.3	50.3	48.0	45.5
農林水産業		31.3	46.9	43.8	50.0	43.8
製造業		45.2	52.2	52.1	45.0	44.6
非製造業		48.6	48.6	49.3	51.4	47.1
雇用関連		47.8	58.7	53.3	49.0	50.0

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・(専門スーパー) 中国の景況感への不信感が強まりを見せているので、それが家計動向、小売関係に影響してくる気がする。
- ・(都市型ホテル) オンハンド(予約状況)より、企業の宴会開催は厳しい状況である。もちろん、定例開催の企業もあるが、内容を変えて会食なしの開催など、経費を抑える傾向である。
- ・(金融業) ガソリン価格の低下が続いている状況の中で、メリットを享受する企業は多いと思われる。業種によっては経費削減が図れると思われるが、依然として設備投資については慎重である。

* 本調査の結果報告書(全文)は「いばらき統計情報ネットワーク」に掲載されておりますのでご参照ください。

いばらき統計情報ネットワーク>分野別に統計を探す>物価・景気>茨城県景気ウォッチャー調査

URL : <http://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>